

二液水性床用エポキシ樹脂プライマー

水性ユカエポプライマー

ホルムアルデヒド放散等級
F☆☆☆☆

非トルエン・キシレン

鉛・クロムフリー

厚生労働省指定13物質対応

「水性ユカエポプライマー」は、二液水性エポキシ樹脂の塗床用プライマーです。コンクリート、モルタル面や強化コンクリート面などの各種下地、各種既存塗膜面に対しても優れた付着性を示し、塗り替えにも適しています。また、水性塗料のため臭気も少なく、厚生労働省指定13物質も非配合の環境に配慮した設計です。

特長

幅広い下地適性

コンクリート、モルタル面ほか、機械押えコンクリート、強化コンクリート、密粒アスファルト面など幅広い下地に対して、優れた付着性を示します。

塗り替え適性

幅広い旧塗膜面に対し優れた付着性を示します。水性塗料のため臭気も少なくリフティングの心配もないため、塗り替えに適しています。

速乾性

従来の水性エポキシ下塗材に比べ乾燥硬化性に優れるため、工期の短縮につながります。

環境対応

トルエン・キシレンなど厚生労働省指定13物質を配合しない環境に配慮した塗料です。

用途

水性塗床材の改修・新設用下塗材

適用下地

コンクリート、モルタル、機械押えコンクリート、強化コンクリート、密粒アスファルト、各種旧塗膜など

荷姿

水性ユカエポプライマー

12kg セット（主剤 8kg、硬化剤 4kg）標準塗坪：48～120㎡

3kg セット（主剤 2kg、硬化剤 1kg）標準塗坪：12～30㎡

※上記の標準塗坪は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承ください。

《危険情報と安全対策》

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート（SDS）に従ってください。ご使用の際には、安全管理に注意して作業を行ってください。

《施工後の注意》

本製品には揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。

適用上塗材

アーキフロアー AW、アーキフロアー AWG、
水性アーキフロアー U、水性速硬型ミラクフロアー

既存塗膜との付着性

一般名称	当社製品名	付着性
水性アクリル	アーキフロアー AW	○
	アーキフロアー AWG	○
水性ウレタン	水性アーキフロアー U	○
水性エポキシ	水性速硬型ミラクフロアー	○
弱溶剤エポキシ	アーキフロアー EH マイルド	○
溶剤アクリル	アーキフロアー AS	○
溶剤ウレタン	アーキフロアー UT	○
溶剤シリコン	S K セラミフロアー	○
溶剤エポキシ	アーキフロアー EH	○
無溶剤エポキシ	アーキフロアー EH 無溶剤 / ローラー用	○
厚膜型弾性ウレタン	—	×

※適切な下地調整が必要です。詳しくは標準施工仕様か、塗床材施工マニュアルをご参照ください。

※下地が厚膜型弾性ウレタンの場合は、割れが発生するため、施工を避けてください。

標準施工仕様

【新設】コンクリート、モルタル面など

※機械押えコンクリートの場合は十分な目荒しを行ってください

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)			備 考	
					工程内	工程間	最終養生		
素地調整	・下地表面のレイトンス、油脂、汚れ、ごみなどを入念に除去する。(ポリッシャー型研磨機を使用) ・含水率測定(高周波静電容量式水分計:ケット水分計HI-500・HI-520)にてコンクリートレンジ 表示値 5%以下であること。							—	
1	下塗り	水性ユカエボプライマー 主剤	100	0.15～0.25	1～2	4以上	4以上	—	ローラー、刷毛
		水性ユカエボプライマー 硬化剤	50						

【改修】既存塗膜面など

(23℃)

工 程	材 料 名	調 合 (重量比)	塗付量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間(hr)			備 考	
					工程内	工程間	最終養生		
下地調整	・劣化塗膜などの脆弱層、埃・汚れなどの付着物、タイヤ跡などは皮スキ、サンドペーパー、ワイヤーブラシ、ポリッシャーなどで 除去するとともに、 施工面全体を目荒ししてください。							—	
1	下塗り	水性ユカエボプライマー 主剤	100	0.10～0.20	1～2	4以上	4以上	—	ローラー、刷毛
		水性ユカエボプライマー 硬化剤	50						

注 1) 水性ユカエボプライマーの混合は、主剤：硬化剤＝100：50（重量比）を遵守してください。
注 2) 希釈は絶対に行わないでください。
注 3) 密粒アスファルト面では、0.3 kg～/㎡となります。また、舗装後 3 週間以上（23℃）の養生期間を目安に、油分が表面に染み出てこなくなるまでは施工は行わないでください。
注 4) ワックスや油分が残存している場合の下地調整について詳しくは、塗床材施工マニュアルをご参照ください。

可使時間と塗り重ね可能時間

温 度	5℃	25℃	35℃
可使時間	8 時間	5 時間	3 時間
塗り重ね時間	8 時間以上 72 時間以内	4 時間以上 72 時間以内	4 時間以上 72 時間以内

施工上の注意点

- ・強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温 5℃以下での施工は原則的に避けてください。やむを得ず施工を行う場合には、必ず採暖等により雰囲気温度・被塗面温度を 5℃以上にしてください。冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを行ってください。
- ・下地コンクリートは打設後 3 週間（冬季 4 週間）以上、モルタルは 2 週間（冬季 3 週間）以上の養生をとり、かつ十分に乾燥させてください。
- ・水勾配は下地モルタルでとってください。
- ・軽量コンクリートは塗床下地として適していませんので、できるだけ塗装は避けてください。
- ・塗膜の膨れ、剥がれ、白化、しみの発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
- ・風化したコンクリート、雨に打たれたり凍結により強度のないコンクリートについては、最寄りの各営業所へお問い合わせください。
- ・下地にレイトンスや脆弱部があると付着不良の原因となります。サンダーやワイヤーブラシなどで予め除去してください。
- ・下地のクラック、不陸等は仕上がり不足の原因となりますので、予め下地調整を行ってください。
- ・十分な塗膜性能を確保するため、所定の塗回数、塗付量、膜厚を確保してください。
- ・塗付量、所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減場合があります。
- ・薄膜型塗床材（特に水性系かつ塗装直後）は、ラインテープを取り除く際に剥離することがありますので、ご注意ください。
- ・各標準施工仕様に記載の使用量及び間隔時間を守り、施工してください。
- ・低温又は高湿度時には、乾燥が遅くなりますのでご注意ください。また、気温 5℃以下、湿度 85%RH 以上の時は、塗膜の白化、艶引け、硬化不良、付着不良の原因となることがありますので、施工を避けてください。
- ・内部の塗装で、換気が十分でない場合や風通しの悪い場合、塗膜中の蒸気が滞留し、塗膜の乾燥が遅くなったり、硬化不良の原因となるおそれがあります。必ず十分な換気を行い、塗膜が十分に乾燥、硬化できるようにしてください。
- ・食品工場に使用する場合は、臭いが製品に移らないよう、十分な対策を講じてください。
- ・乾燥過程で水（降雨）、結露など水分の影響を受けると白化することがあります。
- ・施工部位を確認し、養生が適切に行われているかを確認してください。
- ・材料は、開缶後十分に攪拌してから、必ず計量器を利用し、製品缶に記載の比率を厳守して正確に混合してください。異なった比率で混合すると、硬化不良、塗膜異状の原因となります。
- ・材料の混合は十分に行い、可使時間以内に使い切るようにしてください。可使時間を経過したものを使用しますと、硬化不良、付着不良などの原因となります。
- ・材料の保管時は、直射日光の当たらない風通しの良い場所で保管してください。
- ・凍結させないように 3℃以上の室内に保管してください。
- ・性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。

エスケー化研株式会社